

医学情報と共同リポジトリ

続・病院誌、看護研究誌の必要性

MIS30

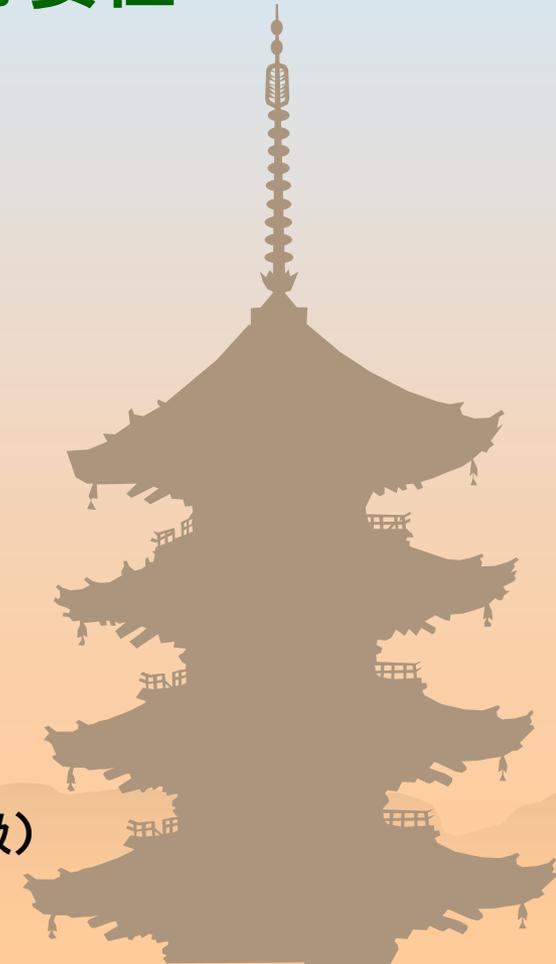
パネルセッション話題提供資料

2013.07.07



奈良県立医科大学附属図書館
和田崇

JMLAヘルスサイエンス情報専門員（中級）





自己紹介に代えて



奈良県立医科大学機関リポジトリ

「GINMU」(<http://ginmu.naramed-u.ac.jp/>)

Global Institutional repository of Nara Medical University

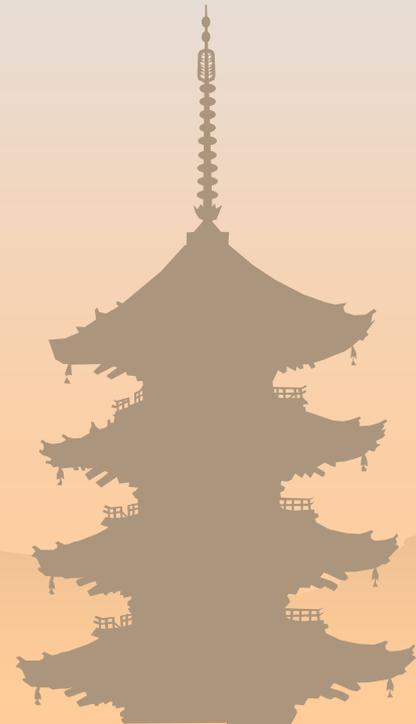
読み名は「ギンム」ではなく「ジンム」

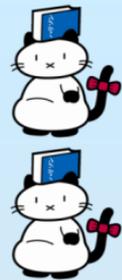
大学所在地の橿原らしく神武天皇から（係長の悲願）

2009年11月正式公開

2010年5月登録件数1000件突破

2013年7月現在約2300件の登録数





現在の状況①

- ・ 2013年度の予算で、共同リポジトリに対するGOサインが出た
 - まずは**奈良県立**の病院図書室が対象
 - 今後は**県立以外**の病院も対象？
- ・ 自学の附属病院看護研究誌「葦」を収載開始
 - 研究情報を広く頒布することに対しては同意を得られた
 - 院内発表分**のみの掲載となった
 - ※院外発表分は他院での看護師が多く、許諾を得るのが困難なため断念

現在2005年度分から2010年度分まで登録済み
(2005年から過去分も随時遡及入力中)





現在の状況②

- ILL受付件数（2012年度）※FAXでの受付は除く
→3045件中1113件(約4割)が病院誌、看護研究誌
- ILL依頼件数（2010年度～2012年度）
→4871件中936件(約2割)が病院誌、看護研究誌



臨床の現場での
実践的な情報



実践に則した情報のため
非常に分かりやすい



現在の状況③



- ・ 所蔵機関が少ないため入手先機関が偏る
 - 受付の場合は奈良県内の病院誌、看護誌が多数を占めている
 - 依頼の場合も申込機関に限られる
 - **所蔵館の負担が増大**

- ・ 最悪は手に入らない・・・（結構ある）
 - もしくは高額な医中誌などへの申込を余儀なくされる
 - **利用者の負担が増大**



現状の打開策

病院図書室の機関リポジトリへの参画

- 前述のように病院誌、看護研究誌の供給は急務
- 共同リポジトリへの参加なら負担が少ない

単独での構築機関からも積極的にアプローチしていく

- 有益な情報を有する機関との協力体制の構築
- 効率的な情報発信

患者への「より良い医療」を提供することにつながる



問題点

- ・ 共同リポジトリは参加機関の負担が少ないのは確かだが、**全くないわけではない**
 - 収載対象誌の編集担当部署との調整が必要
 - 著作権の所在の確認
 - 文献内で症例となった患者のプライバシーの確認
- ・ 昨年の**MIS29**で、同様のWSを開催（DRFmed-MIS29）
 - 上記の件を含む、病院図書室側の意見を聞くことが出来た



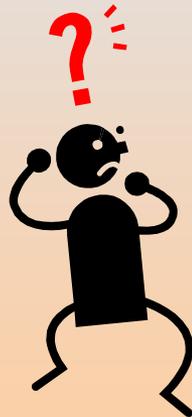
MIS29での反応



興味はあるけれど . . .



人も時間も
お金もない



とにかく
難しそう



機関誌を重要視
していない



立場上口出し
できない



MIS29を通じて . . .



病院図書室の現状を知り、今後の共同リポジトリ化に対する課題が見えてきた

今後は、参加を打診するだけではなく、**実際に出向き**、関係部署、所属医師、看護師との直接対話が必要（説明会の実施等）



つまりこれまで以上に**周知活動**に力を入れる必要がある



今後の展望



それでも窓口となるのはやはり図書室、
またリポジトリ構築時にも、やはり病院図
書室のスタッフさん達との協力作業となる

宜しくお願いいたします。





ご清聴
有難うございました。